

雜 錄

第66回帝國議會衆議院議事速記 抜萃 (12月1日製鐵に關する件)

中島彌圓次 (前略) 更に大藏大臣に對して申し上げますが、製鐵事業は今非常に發達致しまして、銅鐵及銑鐵の如きは非常なる騰貴して居ることは大藏大臣も御承知だらうと思ふ。然るに今度の合同せられた製鐵會社と云ふものは、營業收益税も納めて居ない、所得税を納めて居ない、是は製鐵業保護の爲にやつて居るのであります。是は課税をしたならば相當の財源となるのであります。是は如何に御取扱になるのでありますか、更に6分の配當をして居りますが、それを8分配當に致しましたらば400萬圓や500萬圓の金は是から出て來ると思ふ。是等に付ては農村救済に御向けになる財源として、私は最も良いものと考えておりますが、大藏大臣は如何に御考になるでございませうか。(以下略)

高橋是清君 (國務大臣) 中島君の終ひに於て私への御尋は、製鐵事業の今日發達して居るのに、之に向つて最早免税して置くには及ばぬからして、此免税を廢したら宜からうと云ふ御考へからして、私にも其考があるかないかと云ふ御尋と了解しました、それは或は商工大臣から御答したかも知れませぬが、此製鐵事業のことは御承知の通り、私も三派内閣の當時、農商務大臣の職を汚しました時に特に委員を拵へて、我國に於ては國策として製鐵事業が起り得るのであるかないかと云ふことを充分に調査しまして、其時分から此事は考へて居るのであります、何分製鐵のことにになりますと、今日は我國の製鐵事業は發達して居るから、最早特別の保護の税を課して置かなくても進んで行けると云ふ狀況が目前に現れましても、何時又外國の方の經濟界の變化に依つて折角成長した我國の製鐵事業を害するやうなものが入つて來ぬとも限らない、此經濟界の、外國貿易に關係して居る經濟界の狀態は、實に始終變つて行くのでありますから、長く期待して安心することも出來ない、又長く心配することも要らないと云ふやうな狀況で事實あるのです、是が今日の世界の狀況である、それ故に今日に於きましては、先づ此保護税を廢すると云ふ考は私としてはまだ持つて居りませぬ。以下略(官報號外12月2日)

ラトヴィア國の鐵及鋼專賣制採用 (昭和9年9月24日附在ラトヴィア、佐久間臨時代理公使報告) ラトヴィア藏相エーキス政府通信レタ代表者に對し次の趣旨を語る旨 1934年9月21日當地新聞紙に報道せられたり。

鐵の取引は既に久敷き以前より輸入せられたる鐵に付ての中間利益が大に過ぎ、極めて不當なること認められ居たり、鐵は最廣く消費せらるゝ貨物の一たるを以て其の狀態は永く堪へ得べき所に非ず輸入者が鐵1噸105ラットにて輸入し、之を220乃至230ラットにて賣却するは到底許し得ざる所にして、以上に依れば鐵輸入の利益は實に70%乃至90%に達する次第なり、關稅運賃消費者への送達費等は勿論、必要なるも前記の如き高價の理由とは爲らず、レーパイヤ針金工場及レーパイヤ軍港工廠に於て賣らるゝ鐵に付ては卸賣商はレーパイヤ渡1噸155ラット、又里賀岸渡164ラットを支拂ふに過ぎず、昨年の結果に依ればレーパイヤ諸工場は繼續的に活動せば、地方的鐵消費額の約3%を供給し得べき處、消費額全部を

供給せんと企つるは合理的に非ず、蓋し鐵は極めて多數の種類に於て製作せらるゝを要すべく、而して鐵製品中需要少き種類の製作は利益少く、之を輸入するを適當とすればなり、大藏省は消費の爲の價格輕減を目的とする鐵市場統制案を作成し1934年9月21日閣議に依り決定せられたる處、以上特別の法律を公布することなく、コンチンгент制度に依り統制を實行せんとするものなり、勿論此案は少數の鐵卸商には喜ばれざるべきも、之に依り鐵價は1噸220ラットより170ラット以下に下落(即ち約25%)するを以て、經濟界に一大好影響を與ふべし、上案の内容次の如し。

- (1) 來たる10月1日以後鐵及び鋼の輸入は、レーパイヤ軍港工廠のみ之を爲すことを得。
- (2) レーパイヤ軍港工廠は國、公共團體及び個人商社の一切の鐵需要額を供給すべし。
- (3) 同軍港工廠は一切の主要都市等に於て1噸140ラットにて鐵を賣却すべく、其結果1噸に付24ラット丈價底下すべし、其に依り國內全部に於て同一の鐵價を實現すべし。
- (4) 大藏大臣は物價監督官の協力を以て、仲次手数料及消費者への賣却の際の鐵の値段を決定すべし、卸賣商は小賣商に對し鐵を1噸160ラットにて賣り、小賣商は消費者に對し1噸175ラットにて賣ることゝ爲るべし、多量の購入は直接軍港工廠より爲すことを得べし。

上新制度に依り多數の鐵商品特に針の値段が輕減せらるゝことを期待し得べし、尙大藏大臣は近日中其に關する命令を外國爲替委員會に對し發すべし、云々。(海外經濟情報 昭和9 No. 50)

湖南の安質母尼產出狀況 (昭和9年10月13日附在長沙、高井領事代理報告)、最近3箇年間の產額及輸出狀況 湖南產安質母尼が、世界產額の85%を占むるは事實なる處、當方面工業は未だ發達の過程に踏入り居らざる爲、產地湖南では全然其消費なく、全部省外へ海外輸出の爲積出さる、支那内地の消費量は極めて少きを以て、長沙港の輸出額を湖南產安質母尼の海外輸出數量と見て大過なし、今其積出徑路を見るに、廣東境近接地方に産するものゝ僅に一部が、民船により廣東へ積出さるゝ外は殆ど全部長沙に集り、長沙より漢口又は上海へ一度積送され、同地より更に外國向輸出せられ居る處、稀に長沙より直接外國向輸出せらるゝことあり、從て長沙港の輸出數量を以て、產額の概數と看做すを得べし。

海關統計に依れば、最近3箇年(自昭和6年至昭和8年)の長沙港安質母尼輸出數量次の如し。(單位擔)

品 種	昭和6年度	昭和7年度	昭和8年度
純安質母尼	201,098	225,385	180,644
生 同	29,848	40,943	27,057
酸化同	16,716	25,973	18,330

製鍊工場の設備其他 現在長沙の安質母尼製鍊工場としては、湖南黑鉛鍊廠及中央貿易公司の二あり其内容次の如し。

湖南黑鉛鍊廠 南門外六舖街に在り、官商合辦にして楊開勁之が廠長たり、本工場は安質母尼のみを製鍊するに非ざるも、規模大にして大小各一箇の熔鐵爐を有し。大爐は當地美記翻砂廠(美記鑄工場)の製造に係り、小爐は逸品なり、小爐は現在未だ使用を開始せざるも、大爐は一班80名の職工を用ひ、1晝夜6班を以て晝夜作業し、職工總員500名内外あり、機械は舊式にして未だ純錫を出すに

至らず、生銹を産す。

中央貿易公司 南門外六鋪街に在り、本來は安質母尼の貿易を業とせるものなるも、經理張銘西は湖南高等工業學校卒業後、米國に留學斯業を修めたるものにして、同公司の後に一小製鍊工場を設け製鍊に従事せり。

工場には熔爐 1 基あり、内に 10 壺を有し 1 班の職工を 6 人とし、1 日 3 班を用ひて作業す、本工場は優良なる純鐵を産す、尙本公司は民國 19 年に錫鑛山の 1 製鍊工場を買収し、同昌公司及合辦の經營をなし居れり。長沙以外の工場次の如し。

同昌公司是民國 9 年廣東人童潤生羅依譽李廣生等の創設せるものにして、従前は唯長沙に於て安質母尼の賣買をなしたるに過ぎざりしも、民國 18 年株式組織とし、資本金 20 萬弗を集めて錫鑛山に製鍊所を經營せり、熔爐、爐 8 箇を有し純鐵及生鐵を産す、新化縣錫鑛山は湖南隨一の安質母尼鑛山にして、前記同昌公司中央貿易公司の外、20 内外の製鍊所ありて、熔爐は 100 餘を數ふるも、近年不況の爲大方休業し、作業し居る熔爐は 30 箇内外に過ぎず、其生産高は民國 17 年に毎月平均純鐵 800 餘噸を出せるもの、民國 21 年には 430 噸に低下し居れり、本山の鑛質は優良にして湖南産純鐵の大部分は當山より出さる、新化縣内には猶公益、集益、祥利、保善、益福、美記、寶和、福星の 8 箇の製鍊所散在するも、何れも小規模にして舊式且不完全なり、湖南第二の安質母尼鑛山たる滑板溪鐵鑛山には、長沙其他の工場を失ひ辛くも残り居る華昌公司及久通公司あり、久通公司は一度倒産したるを、黒鉛鍊廠の前任廠長賀益侯が株式を募集して之を買受け、自身一切を經理して再興したるものにして、毎年 2,000 噸乃至 2,500 噸の生鐵を出す、安化縣には新記其昌公司の製鍊所あるも、營業不振にて停業多き状態なり、生鐵を出す龍山、藍廣の兩鑛山は民國 16 年閉業の儘なり、以上の如くして當地の安質母尼製鍊業は民國初年開業當時の儘か又は倒産工場の機械を買受たるか、乃至は舊型のものに當地鑄物工場に作らしめたるものにして、何等の改善をも加へざる状態なるが、以上は國際的不況に因り需要減退し且極度の値下りを來せる結果、湖南製鍊界として差當り優良機械買入れの資力なきが爲に外ならず。(海外經濟情報昭和 9 Na. 50)

濠洲アルミニウム並同製品輸入狀況 (昭和 9 年 9 月 5 日附在シドニー、村井總領事報告)

當國のアルミニウム並同製品輸入數量次の如し。(單位噸)

	1930~31 年	1931~32 年	1932~33 年
アルミニウムの塊、鑄塊、切屑及粒			
英國	2,863	1,143	3,747
其他英國	40	1	8
其他外國	40	1	—
計	2,943	1,145	3,755
アルミニウムの棒及板			
英國	642	534	565
其他外國	94	4	9
計	736	538	574
アルミニウムの管及板			
計	61	4	3
アルミニウムの延板及小割板			
英國	10,072	8,929	13,677
加奈陀	75	143	3
北米合衆國	276	1	—
其他外國	3	—	112
計	10,426	9,073	13,792
アルミニウム線			

計	142	98	227
其他のアルミニウム製品			
英國	2,120 磅	642 磅	3,290 磅
其他英國	8	—	15
獨逸	8,266	172	—
北米合衆國	1,368	146	749
其他外國	431	125	688
計	12,193	1,085	4,742

(獨逸を含む)

(註) 製品の輸入額は英磅。

輸入關稅は(イ)塊、鑄塊、切屑及粒は特惠無稅、一般 15% (ロ)アルミニウムの棒及板(未製のもの)は特惠 15% 一般 30% (ハ)線同、(ニ)鍍金、磨き又は加工板、管、棒及小割板(不含錫鍍金)特惠 30% 一般 50% (ホ)アルミニウム製品(特種品を除く)特惠 40% 一般 6%。

以上の外外國品に對しては一律プライメーチ稅 10% を賦課せらる。

特惠率の適用を受くるもの(現在に於ては英本國品に限る)に付ては、前顯(ロ)、(ハ)、(ニ)、(ホ)の項に屬するものに限り、濠英爲着率が現狀を維持するに於ては稅率 1/4 を減せらる。

加之プライメーチ稅も亦以上商品に關しては 4% なるを以て、輸入稅は實質上次の如し。

(イ) に屬するもの	前顯の通り。
(ロ) 同	特惠 15.55%、一般 40%
(ハ) 同	同
(ニ) 同	特惠 26.5%、一般 60%
(ホ) 同	特惠 34%、一般 70%

尙アルミニウム加工業者次の如し。

Mettters Limited	Sydney N.S.W.
Sellers Ltd.	Reafern, "
C.R. Byrue	Bankstown, "
The Osborn Pressed Metal Works,	Marrickville, "
The Meseley Aluminium Company,	South Hurstville "
Webeck Brothers,	Eumore, "
Griggs and Russon,	South Hurstville, "
Stretton and Company,	Campsie, "
Austral Sheet Metal Works Ltd.	Thabarton, S.A

アルミニウム容器の製造は 1930 年 4 月 4 日該品の輸入禁止以來急激に勃興し 1932 年 8 月 31 日禁止は解除せられたるも、特惠 50% 一般 70% (共にプライメーチ稅を含む)の高率は國內製造業を獎勵し、輸入品を抑壓するに充分なり。前記特惠率の低減は英國品の輸入を幾分増加せしむべしと期待せらる。

以上製造業者は何れも原料たるアルミニウム板及サークルの大部分を輸入品に仰ぎ居り、多きは 9 割 8 分、平均 8 割 7 分の原料品を輸入に待つ次第なり。原料輸入國として、英國以外は殆どネグリヂブルなるは前顯の通り。

アルミニウム板及サークル(20 ゲージ以上のもの)の 1927 年より 1932 年に至る各年の平均値段(1 封度當 21 乃至 24 ゲージは(1 片上り)次の如し。

年次	アルミニウム板		アルミニウム、サークル	
	英本國港 F.O.B	濠洲工場 渡	英本國港 F.O.B	濠洲工場 渡
1927	1 志 2 片	1 志 2 片 1/2	1 志 3 片	1 志 3 片 1/2
1928	1 志 1 片 3/4	1 志 2 片	1 志 2 片 1/2	1 志 3 片 1/4
1929	1 志 1 片 1/2	1 志 2 片 1/4	1 志 2 片	1 志 2 片 1/2
1930	1 志	1 志 1 片	1 志 0 片 1/2	1 志 1 片 3/4
3931	1 志	1 志 3 片	1 志 0 片 1/2	1 志 4 片
1932	1 志 0 片 1/2	1 志 5 片 1/2	1 志 1 片 1/2	1 志 6 片

以上の如く運賃、保険等の諸掛は 3% 乃至 4% に過ぎず、アルミニウム製容器のそれが概ね 10~20% に達するに比すれば、容器の保護は著しく大なるものと云ふを得べし。

アルミニウム網の製造は Metal Manufactures Proprietary Ltd, Port Kembla, N.S.W. の獨占する所にして、本會社は銅製品特に銅線の製造を主とするものなるが、背景に Australia Iron & Steels Works Ltd. を通じて、英國の Dorman Long を有し、後述の如くアルミニウム工業界を事實上獨占す。

Austral Bronze Company Ltd, Alexandria, N.S.W. は元來前記會社の競争たるべき會社なりしも 1929 年全株式 M・M・P の買収する處となりたり。規模は極めて小にして、産額は濠洲全需要の 10% にも達せず。濠洲のアルミニウム工業の將來に付濠洲のアルミニウム含有鑛は、現在迄の調査に依れば殆ど皆無に近く、原料は労働賃銀の關係上、鑛石を輸入すること不可能に近きを以て今後アルミニウム製品製造業の發展と相俟つて、地金の輸入は漸次増加すべしと想像せらる。

然れどもアルミニウム製品の需要は現在尙極めて少く、從て英國品以後の侵入は今尙困難なるを思はしむ。(海外經濟情報 昭和 9 No. 50)

蘇聯邦重工業成績 (1934 年上半年) (昭和 9 年 8 月 8 日附在オデッサ、平田領事報告) 蘇聯邦工業概績 1934 年 1~4 月蘇聯邦工業總生産額は、前年同期に比し 18.5% 増にして、且前年の以上増率 6.4% に比し大に良好なり、就中生産手段の生産をなす A 類工業は前年の増率 10% に對し 25.6% 大衆必要品の生産をなす B 類工業は 2.3% に對し 6.1% 夫々増なり、而して本年プランは對前年増率を工業全體に付 19%、内 A 類工業 21.7%、B 類工業 15.8% と豫定せるを以て、之に以上 4 箇月間の増率を對比するに、A 類工業はプラン以上の増率を示せるが、B 類工業の不振に依り、工業全體の對前年増率はプラン以下となり、A、B 兩類の比重は次の變化を見たり。

	1932 年(全年)	1933 年(同上)	1934 年(4 箇月)
A 類 工業	52.5	55.4	60.6
B 類 工業	47.5	44.6	39.4

尤も B 類工業は A 類に比しプラン遂行の程度は不良なりと雖、關係は前年の 4.4 に對し、本年は 2.85 に低下せるを以て當局の B 類工業促進の政策は、著々實現せられつゝありと言ひ得べく、就中供給部所營の食品工業は、本年 6 箇月間に 2,256,900 萬留 (1926~27 年度價格 1934 年全年生産豫定額は 566,300 萬留) を生産し、前年に比し約 40,100 萬留即ち 21.6% の増加なり。

重工業成績 本年上半期の重工業部所管重工業の成績は、當局の發表に依れば次の如し。(各年共上半年成績)

	1933 年	1934 年	對年プラン%	對 33 年上半期%
總生産額(百萬留)	7,548.9	9,488.7	47.4	129.1
労働者數(千人)	1,932.5	2,131.7	—	110.3
一労働者當上半期生産高(留)	3,678.0	4,296.0	—	11.68

備考 價格は 1926~7 年度價格に依る。

本年重工業部所管重工業生産プランは 198 億留、前年に比し 23% 増の豫定なる處、上半期に於て既に 29% の増率を示し、其對前年増産ペースは前行諸年の夫に (1931 年 13.1%、1932 年 12.1%、1933 年 11.1%) に比しても著數高く、又年プラン遂行程度も 1932 年 35% 1933 年 42% に對し、本年上半期は 47.4% にして、大いに良好なり。

生産労働の質的方面に於ては (1) 其基礎をなす労働者數は、前掲の如く上半期に前年同期に比し 10.3% 増加し、労働者の移動率は大に減じ (2) 労働能率即ち労働者 1 人當り 1 日生産額は、重工業部平均にて前年の 28.3% 留に對し、1931 年 5 箇月平均は 731.8 留にして、前年同期に比し 15.8% 増加 (本年プランに依れば工業全體にて 13.5% 増) し (3) 生産原價の低下は、本年プランに依れば、工業全體にて 4.7% 内重工業部 6.5% 低下豫定の處、4 箇月間に重工業部所管工業は 5.5% を低下し、前年全体の 4.2% に比し良好なり

主要部門別成績 本年上半期の重工業諸部門の成績を通觀するに石炭及製鐵業は數年來の不振を脱し、大なる進境を示し、重工業好績の因をなし、機械製造工業は大なる飛躍なく農業機械、運輸機械の製造不振に依り比重を減じ、石油は絶對數量に於ては増加せるも噴油の減少鑿井工事の不進捗に依り、プランに對する割合は大に悪く、化學工業は近來不斷の増進をなすつゝあり、工業主要部門の年プラン遂行割合を示せば次の如し。(各年共上半年期)

	1932 年	1933 年	1934 年
石 炭	39	42.8	45.7
銑 鐵	33	35.4	49.1
壓 延 鋼 材	34	36.1	△44.7
石 油	42	43.2	△38.2
鋼 機 關 車	27	31.6	△33.0
硫 酸 灰	43	39.0	39.5
洋 灰	31	34.3	△39.0
	37	28.0	△31.5

備考 △印は概算或は 5 月 20 日迄の實績に依る。

石炭 本年上半期蘇聯邦採炭總高は概算 4,400 萬噸にして、年プランの 45.7% を遂行せり、毎月プランの實行割合は平均 92~94% にて、從來の不振を脱し、前年同期 (採炭高 32,900 萬噸) に比し約 27.1% を増加し、其増産ペースは第 1 次 5 年計畫期中の最高ペースに匹敵す。

其内ドンバスの採炭高は 28,955,000 噸 (前年同期 22,285,000 噸) 上半期プランの 98.8%、内機械掘は 22,354,000 噸 95.7% なり、ドンバス採炭のプラン未遂行は機械休止の多數に原因するものなるが、機械掘の率は逐年擴大せられ、採炭全量は前年上半期に比し 22.1% 増に對し機械掘は 25% なり。

炭坑開設工事はプランの 8 割程度にして、面白からざるものあり採炭原價はプランに比し 2.7% の超過なり。

石油 蘇聯邦採油は 1931 年の記録的増収後 (同年採油高は 22,300 萬噸) は噴油の減少、鑿井工事の不進捗に因り漸減の傾向を示し、本年上半期採油高は年プラン (30,662,000 噸) の 38.2% にして、プラン實行の割合は前年同期の 43.2% (1933 年全年プランは 24,400 萬噸又同年實績は 21,400 萬噸) に劣るも、絶對數に於ては 1 割餘の増加なり。

製油方面に於ても何等改善の跡なく、上半期製油高 1932 は前年度の夫より少なく、採油及製油共重工業部門中最も不成績なり。

製鐵 本年上半期の製鐵成績を示せば次の如し。(單位噸)

	1933 年上半年		1934 年上半年			
	對年プラン%	對前年同期%	對年プラン%	對前年同期%		
銑 鐵	3,221	35.4	107.3	4,910	49.1	152.4
鋼 鐵	3,022	33.8	103.7	4,494	45.8	148.7

而して壓延鋼材は年プランの約 44.7% にして、前年同期に比し 37.7% を増加せり。

以上の如く本年上半期の製鐵業は前年に比し大なる進境 (尤も前年は極度の不振年なり) を示し、其輸出高は銑鐵は 1930 年の全年

製出高に、鋼は夫れ以上に、壓延鋼材は 1928 年 全年の夫れに匹敵するに至れり、然れ共當局の鋼及壓延鋼材促進の方針は未だ實現せらるゝに至らず、依然銑鐵に比し劣績なるが、以上はマルチン爐及壓延臺の裝備及之が技術習得の缺陷に基因するものなり。

蘇聯邦製鐵業の基礎をなすスタリ聯合の上半期成績次の如し。

		對前年同期(%)		對年プラン(%)
銑	鐵	2,840	139.0	50.0
鋼	鐵	1,795	140.0	51.0
壓延鋼材		1,570	125.4	49.5

他方製鐵原料の採収及製出は、前年に比しては良好なるも、製鐵業の發展に伴はず、之が躍進を阻害せんとするの状況なり、以上上半期の成績を示せば次の如し。(對年プラン%)

		1933 年 全年	1934 年 上半期
鐵	鐵	76.1	40.4
コ	クス	81.1	45.9

而して南露製鐵業に原鐵を供給するクリウオイログ鐵山の上半期成績は 5,938,000 噸にして、前年に比し 50.1% 増なるも、プランに比し 350,000 噸の採鐵不足なり。

有色金屬 各種有色金屬上半期の製出高次の如し。(單位千噸)

	1932 年	1933 年	1934 年
銅	2470	209	2260
鉛	950	65	1130
亜鉛	640	89	920
アルミニウム	0.14	1.0	5.80
ニッケル	—	—	0.33

而して採金數量は發表せられざるも、6 月下旬に於て上半期プランを完行し、採金高は前年同期に比し 51% 増の由なり。

機械製造 本年 5 箇月間の機械製造高は、重工業機關紙所報に依るに、年プランの 39.5% にしてプラン遂行程度は石油工業と共に工業中最劣等なるが、前年同期に比して 26% 増なり、主要トラスト別に見ばれ次の如し。(對前年上半期%)

自動車及トラクター	142.4	重工業用設備	125.0
機臺製造	140.8	電機	118.4
運輸機械	139.6	農業機械	93.3

自動車及機臺製造のプランに達せる外、孰れも豫定以下にして、殊に農業機械の製造は前年より劣る。

自動車及トラクター 本年 1~6 月の自動車及トラクターの製造高は、重工業部公表に依れば次の如し。(單位臺)

	對上半期 プラン%	對年 プラン%	1933 年 上半期
自動車	34,211	100.6	21,101
内			
乗用車	8,416	100.2	49.5
トラック	25,795	100.7	46.9
トラクター	44,762	98.6	49.7
			33,031

自動車製造に付ては現存 3 工場共プランを超過遂行し、トラクター製造はスタリングラド及ハリコケの 2 工場はプラン通りの製造をなせるがチェリヤビンスク工場は 82.9% にして大に不良なり。

運輸機械 本年上半期の機關車及車輛の製造高は次の如し。

		1934 年上 半年豫定數		同實績	1933 年 上半期
機關車		632	513	450	450
貨車(二軸に換算)		19,600	14,368	9,308	9,308
客車		936	611	665	665

以上の如く機關車及貨車の製造は、前年同期に比し増加し、客車は減少せるが、上半期プランは孰れも未遂行なり、就中強力機關車(エフデ及イ・シー型)の製造は著しく不振なり。

機關車及貨車の製造は、第 1 期は鐵材及木材の供給良好なりし爲比較的成績なりしが、第 2 期に入り原料供給悪化し、第 1 期に比し機關車 14 臺、貨車 1,171 輛の減少を見たり。(海外經濟情報 昭 9 No. 50)

佛國鐵鋸製造工業狀況(昭和 9 年 9 月 3 日附在佛、三谷臨時代理大使報告)

生産額 佛國鐵工委員會 Comité des Forges de France の調査に依れば、佛國の鐵鋸生産額次の如し。(單位千噸)

年次	1930	1931	1932	1933
厚さ 5mm 以下	742	662	586	648
同 5mm 以上	277	218	222	240

輸出額 最近 1931 乃至 1933 年の 3 箇年間輸出統計次の如し。(單位數量キントル、價額千法、キントルは 100kg)

國名/年次	數量		
	1931 年	1932 年	1933 年
ホットロール鐵鋼研磨鋸			
瑞 西	—	—	36
白 耳 義	249	—	14
チ ュ ニ ス	193	182	15
摩 盧 哥	228	108	1
アルヂエリ	—	311	9
西 班 牙	—	192	—
佛 領 西 部 阿	465	—	—
レ ュ ニ オ ン	1,111	173	—
マルチニツク	—	—	289
其 他	211	96	37
計 價	2,350	1,062	401
未 裁 平 鋸	392	161	70

丁 英 獨 白 和 瑞 支 亞 チ ュ ニ ス	15,363	11,216	13,225
抹 國 逸 義 蘭 西 那 國	111,464	60,211	21,637
瑞 獨 逸 義 蘭 西 那 國	102,242	133,997	151,236
白 耳 義 蘭 西 那 國	239,388	66,609	141,680
和 義 蘭 西 那 國	17,449	12,280	8,011
瑞 西 那 國	239,880	251,538	259,832
支 亞 國	28,583	32,706	36,434
チ ュ ニ ス	18,474	19,104	17,119
アルヂエリ	16,760	20,191	22,312
印 度 支 那	54,908	43,530	54,431
諸 威 典 本 及 他	12,951	—	8,235
計 價	—	14,667	11,852
未 裁 平 鋸	—	18,133	15,337
日 本	—	14,144	59,619
埃 其 他	—	14,466	9,787
計 價	90,953	67,808	82,587
未 裁 平 鋸	948,418	700,500	924,334
價 額	75,835	56,750	56,744

既裁鐵鋼平鋸		1931 年	1932 年	1933 年
蘇 聯 邦	49,130	26,801	—	—
瑞 典 國	6,810	—	—	—
英 國	16,265	15,543	—	—
獨 逸 國	454,637	321,482	407,436	—
和 義 蘭 盧 森 堡	11,261	6,626	—	—
白 耳 義 蘭 西 利	13,448	15,836	—	—
瑞 伊 太 利	7,487	—	4,868	—
支 那	7,577	—	—	—
アルヂエリス	6,930	18,018	4,195	—
チ ュ ニ ス	21,319	9,738	—	—
印 度 支 那	10,355	—	—	—
日 本	4,745	15,495	6,570	—
亞 爾 然 丁 威 他	5,706	—	—	—
諸 國	—	10,893	8,823	—
其 他	—	7,979	—	—
	—	—	6,292	—
	—	34,970	36,577	—

計	644,936	483,466	474,816
價 格	63,316	40,129	41,324
ワールド・ロール平鋼(白色又は青色焼鈍を施せるもの)			
白耳義、盧森堡	—	—	1,766
獨逸	1,770	—	326
瑞 西	1,668	317	364
西 班 牙	2,044	754	2,914
アルヂエリー	2,224	1,716	1,949
チ ユ ニ ス	1,090	620	1,820
摩 盧 哥	705	107	193
ダ ガ ス カ ル	910	462	270
レ ユ ニ オ ン	308	—	853
勃 牙 利	—	88	—
蘇 聯 邦	—	—	10,264
和 蘭	—	109	—
グ ア デ ル プ	—	116	143
印 度 支 那	—	241	177
マルチニツク	—	90	94
其 他	1,142	458	398
計	11,887	5,068	21,532
價 額	3,047	1,024	3,489

トリプレツキ鋼

致 須 國	—	1	—
英 國	12	—	—
白耳義、盧森堡	8	3	1
アルヂエリー	12	—	—
摩 盧 哥	8	—	—
佛領阿弗利加	—	13	—
クアドリアル	—	—	—
計	40	17	—
價 額	14	17	—

自動車ボデー用艶出鋼

獨 逸	6	—	1
カ メ ル ン	4	—	—
アルヂエリー	30	—	—
印 度 支 那	23	—	1
諾 威	—	14	—
瑞 西	—	10	—
白耳義、盧森堡	—	18	44
チ ユ ニ ス	—	17	7
摩 盧 哥	—	—	16
其 他	5	—	4
計	68	59	73
價 額	44	16	27

ニッケル鋼平鋼

アルヂエリー	6,861	4,361	5,074
チ ユ ニ ス	1,102	430	113
白耳義、盧森堡	—	468	—
其 他	185	143	40
計	8,148	5,402	6,227
價 額	1,203	1,165	803

珪素鋼平鋼薄板(珪素含有量 1.5%)

西 班 牙	—	—	50
白耳義、盧森堡	25	93	35
摩 盧 哥	—	50	—
埃 及 他	101	—	—
其 他	—	2	2
計	126	145	88
價 額	41	88	26

大 幅 平 鋼

瑞 典	2,697	—	—
諾 威	1,854	—	7,032
丁 抹	4,805	—	—
英 國	17,794	—	80,129
獨 逸	3,649	—	—
白耳義、盧森堡	38,520	—	18,570
瑞 西	25,668	33,165	27,200

伊 太 利	4,463	30,104	68,582
日 本	1,217	—	—
亞 爾 然 丁	2,933	—	—
加 奈 陀	1,921	—	—
アルヂエリー	2,225	—	5,307
摩 盧 哥	—	—	2,881
其 他	1,232	4,317	4,250
計	108,951	67,586	213,951
價 額	5,886	3,086	7,625

市場組織 佛國の製鋼業者は、同時に極めて重要な冶金業者なり、故に是等各企業者の資本職工數に關する指數は、製鋼業として程度を評價する資料とはならず、例へばウエンデル會社は職工2萬1,000を有すれども、製鋼に従事し居るものは極めて僅少なり、此等企業者は自身にて總ての製品に必要な鐵鑛(時としては石炭さへも)鐵、銑鐵、鋼等を製産す、1933年の初製鋼業者は佛蘭西製鐵組合(Comité sidérurgique de France)の保護の下に新販賣方法を開始せり、其1年前に佛蘭西製鐵組合に依て監督せらるゝ販賣所(Comptoir)を組織したるが、其職能は次の如し。

販賣所は唯一の販賣者にして、註文は總ての義務的にコントロールを経て行はるゝものにして、コントロールは註文に對し一定の割前に從て、各加入者に配分するものとす、例へばロングヴイ製鋼所が受註したる際は、之をコントロールに引渡す、若しロングヴイ製鋼所の割當が充ち得る場合は、未だ其割當の充たざる他の加入者に其註文を讓ることを得。

故にコントロールは會計を設け、勘定書を作り買受人に割戻を與へ、又各加入者の會計を監督するのみならず、定められたる値段を以て販賣する卸商及小賣商の監督をなす、其取引規定次の如し。

平鋼及大幅平鋼の販賣價格 賣價は停車場渡し、(商品が消費者都市以外より來る場合)或は倉庫渡し、(引渡が消費者と同じ都市の商人に依て爲さるゝ場合)なり、2%の割引を以て引渡しの日末より30日以内に支拂ふものとす、賣價は少くともコントロールの停車場渡しの基本價格に、次記の費用を加算したるものなり。

(イ) 20 噸以内の註文に對しては一定の保險料を要す、又20 噸以上の註文に對しては 100kg に付 1 法減の保險料を要す。

(ロ) 鐵道本線又は支線上に在る地方に配達せらるゝ商品に對しては 100kg に付 2 法を要す。

(ハ) 其他の住所に配達せらるゝ商品に對しては 100kg に付 4 法を要す。

上記の規定の適用を承諾せる、鐵商人宛倉庫渡しを取次販賣の註文に對しては、2 法の割引をなすことあるべし、鐵商人の買受たる各種の鐵鋼及大幅平鋼の合算噸數に對し割戻の制度あり。

即ち上記の規定に從ふ鐵商人は、鐵鋼及大幅平鋼の合算噸數に對し、年末に於て後記の制限の下に、次の價格計算第1に依て計算せらるゝ割戻を受くるものとす。

第1項	年最小限噸數 40 噸とし	1 噸に付	6 法
	40 噸より	125 噸迄は	同 6 法
	125 噸	同 250 噸同	同 12 法
	250 噸	同 500 同	同 15 法
	500 噸	同 1,000 同	同 18 法
	1,000 噸	同 2,000 同	同 21 法
	2,000 噸	同 3,000 同	同 24 法
	3,000 噸	同 4,000 同	同 30 法
	4,000 噸	同 8,000 同	同 36 法
	8,000 噸以上	同	同 40 法

以上は引渡しの日末に付次の平均割戻に相當す。

40 噸以下	—	40 噸より 125 噸迄	6 法
--------	---	---------------	-----

150 噸に對し	7 法	185 噸に對し	8 法
250 噸 同	9 法	300 噸 同	10 法
375 噸に對し	11 法	500 噸に對し	12 法
600 噸 同	13 法	750 噸 同	14 法
1,000 噸 同	15 法	1,200 噸 同	16 法
1,500 噸 同	17 法	2,000 噸 同	18 法
2,400 噸 同	19 法	3,000 噸 同	20 法
4,000 噸 同	22 法 50 仙	5,000 噸 同	25 法 20 仙
6,000 噸 同	27 法	8,000 噸 同	29 法 25 仙

上記の規定を適用せざる鐵商人は、鐵板及大幅平板に對し年末に後記制限の下に、次の價格計算第2に於て計算せらるゝ割戻を受くるものとす。

年最小限噸數 375 噸とし	1 噸に付	1 法
375 噸より 500 噸迄は	同	5 法
500 噸 同 1,000 噸 同	同	8 法
1,000 噸 同 2,000 噸 同	同	11 法
2,000 噸 同 3,000 噸 同	同	14 法
3,000 噸 同 4,000 噸 同	同	20 法
4,000 噸 同 8,000 噸 同	同	26 法
8,000 噸 以上	同	30 法

以上は引渡の1噸に付き次の平均割戻に相當す。

375 噸以下	1,500 噸 同	7 法
375 噸に對し	2,000 噸 同	8 法
500 噸 同	2,400 噸 同	9 法
600 噸 同	3,000 噸 同	10 法
750 噸 同	4,000 噸 同	12 法 50 仙
1,000 噸 同	6,000 噸 同	17 法
1,200 噸 同	8,000 噸 同	19 法 25 仙

制限 (イ) 第1及第2價格計算に定められたる噸數割戻の利得は、全ての期間に亘り鐵板大幅平板コントロールに依て監督せらるゝ製品に就き、コントロールに加入せる佛國又はザール工場とのみ取引せる鐵商人に之を與へらるゝものとす。

商工省規定制限量内の輸入噸數の購買は之の限りに非ず。

(ロ) 上記價格計算第1及第2に指示せる割戻金の率は、鐵板大幅平板コントロール加入せる佛國又はザール工場により、關係鐵商人に通達し、又勸定書を送付す。

其工場は次の如し。

佛蘭西工場

- Audincourt (Cie des forges d') et pépendancess
- Beator (Sté Ane l'Acierie et des Laminoirs)
- Biache Saint Vaast (Sté des Fonderies Laminoirs et Ateliers de)
- Chatillon Commentry et Neuves-Maisons (Cie des Forges de)
- Chiers (Sté Ane des Hauts Fourneaux de la)
- Cirages Francuir (Sté générale des)
- Constructions Mecaniques (Anc. Ets Cail)
- Denain et d'Anzin (Sté Ane des Hautes Fourneaux Forges et Ac. de)
- Froncles et Vrain ourt (Sté Ane Forges de)
- Galvanisation (la)
- Gucugnon (Sté Ane des Forges de)
- Haironville (Sté Ane des Forges d')
- Leval-Aulnoye (S é Ane des Forges de)
- Loire (Sté Ane des Usines métallurgiques de la Basse-)
- Longwy (Sté Ane des Acieries de)
- Marcellot et Cie (MM.)
- Marine et Homecourt (Cie des Forges et Acieries de la)
- Maubeuge (Sté Ane de la Fabrique de Fer de)
- Montataire et de la Sambe (Sté Ane des Hauts Fourneaux

- Laminoirs)
- Phade (Cie des Forges de)
- Pompey (Sté. Ane des Hautes Fourneaux Forges et Acieried de)
- Providence (Sté Ane des Laminoirs Hauts Fourneaux, Forges, Fonderies et Usines de la)
- Schneider et Cie (Ets)
- Senelle Manbeuge (Sté Ane Métallurgique d)
- Vraincourt Vieville (Sté Ane des Forges et Laminoirs de)
- Wendel (M.M. Les petits Fils de F. de)
- Wendel (MM. De et Cie)

ザール工場

- Burbach-Eich-Dudelange (Burbach et Hostenbach Acieries réunies de)
- Dilling (Forges et Acieries de)

(ハ) コントロールの規定價格以下にて取引せられたる際には、其原因の如何に拘らず、割戻率には無關係なり。

(ニ) 同一鐵商人に所屬する商品に配達せられたる噸數は、割戻金計算の場合には累算さるゝを得ず。

但一市内に同1名義の數商店を所有する鐵商人の場合は此限に非ず。

(ホ) 拂戻金は本條件適用の検査に任ずる、コントロールの監督を受くる商人にのみ、之を支拂ふものとす。

前記の規定は 1933 年 1 月 1 日以降實施せらる、故に割戻は 1933 年 1 月 1 日より取引せられたるものに適用さる。

何等かの理由に依て決済期間が1箇年未滿なる場合には、價格計算第1及第2の噸數割合は、其期間に比例して減少せらるべし。規格統制 鐵板は鐵工委員會 (Comité des Forges) に於て定むる處に依り分類せらる。

亞鉛引鐵板協定 非亞鉛引鐵板コントロール成立したる結果、亞鉛引鐵板製造業者は之に對し一協定を結べり、共同の販賣所を設けず、各加盟者は夫々注文を受くるも、協定組合は加盟者が果して協定を守り義務を遂行し居るや、其會計を検査する權限を有す。

加盟者は次の如し。

- Acieries de Longwy. Ateliers de galvanisation de Bryoy
- Bavay-Adolphe. Becco frères. Ets Bindès Chedler. Forges d'Hennebont. Forges de Montataire et de la Sambre. Forges de Phade. Gorges de Strasbourg. Galvatole. La Galvanisation. Sté de Galvanisation de Denain Lourches. Sts Ziegler. Ets Ziegler et Seytre

協定の原則 本協定は國內市場に於て、各加盟者に引渡さるゝ亞鉛鐵板に適用せらる。

(イ) 亞鉛引鐵板とは亞鉛を被せたる鐵板にして、鍍金前は1乃至3.6 mmの厚さを有し、偏平又は浪型にて引渡さるゝものと言ふ。(ロ) 引渡とは加盟者所屬の工場附倉庫及鍍金作業場より搬出せらるゝ全ての亞鉛引鐵板に適用し、假令委託場に向け發送せらるゝ場合に於ても引渡とし、只加盟者所屬數工場間の運搬は引渡と認めず。(ハ) 國內市場は次の通り。

佛本國及コルシカ、ザール地域、アルヂエリ、マダガスカル、レユニオン、印度支那、ガドウループ、マルチニツク、ギニヤヌ各加盟者に對しては夫々一定の割當ありて、其割當を%を以て表示す、協定組合委員長並監督員は、加盟者の申告審査に關しては極めて廣き權限を有す。

毎月々初に定期の集會を開き、市場にて販賣し得る噸數を定む、而して各加盟者は其割當に比例する量の分配を受く。

即ち市場に於て 1,000 噸を吸収し得べしと決定せられたる場合は 10% の割當を受くる加盟者に對しては 100 噸を引渡すことを得。

加盟者にして引渡噸數に關し、虚偽の申告を爲したる場合には、該加盟者の割當噸數より申告漏噸數の倍額を控除すると共に、最小限度 5,000 法と申告漏の 1 噸に付 200 法宛の罰金を課す。

1933 年 4 月現在價額次の如し。(單位法)

厚さ 6mm 浪型亞鉛引鐵鋼

1.5 乃至 2 同	2 噸 5 同	100kg に付 同	15) 145
---------------	------------	---------------	------------

5 同	10 同	同	135
10 同	20 同	同	134
20 同	50 同	同	133
50 同	100 同	同	132
100 噸以上		同	130

平亞鉛引鐵鋼(普通註文品の巴里北驛渡)

各 100kg に對し、優等品 235 法、1 等品 210 法、2 等品 195 法、3 等品 175 法、4 等品 155 法、5 等品 153 法、6 等品 151 法、7 等品 149 法、8 等品 147 法、9 等品 145 法。(海外經濟情報 昭和 9. No. 51)

主要製鐵所に於ける 9 月分鐵鋼材生産高調 (商工省鑛山局) (單位噸)

種 別	9 月 分			累 計			
	昭和 9 年	昭和 8 年	増 減	昭和 9 年	昭和 8 年	増 減	%
銑 鐵 普 販 同 鍛 普 通 鋼 壓 延 鋼 材	155,467	140,468	14,999	1,416,055	1,135,517	280,538	24
	38,850	31,800	7,050	338,886	323,470	15,416	4
	286,372	247,358	39,014	2,704,393	2,228,656	475,737	21
	6,330	5,025	1,305	63,064	71,961	△ 8,897	12
	12,851	2,287	10,564	106,585	85,717	20,868	24
4,569	5,159	△ 590	46,703	40,907	5,796	14	
241,862	206,152	35,710	2,244,878	1,779,452	465,426	26	
壓 延 鋼 材 内 譯							
厚 0.7mm 以下鋼板	22,678	23,710	△ 1,034	218,478	225,872	△ 7,394	3
其 他 力 鋼 板	33,170	22,626	10,544	462,631	340,488	122,143	33
鐵 棒	5,689	—	—	42,186	—	—	—
形 軌	55,742	57,044	1,302	541,338	464,947	76,391	16
線 鋼	36,278	27,471	8,807	318,578	252,523	66,055	26
鋼 條	31,130	22,335	8,795	271,749	185,436	86,313	46
管 材	23,844	22,580	1,264	262,745	197,521	65,224	33
其 他	10,792	7,742	3,050	96,711	87,716	8,995	10
	2,533	2,444	89	30,462	24,749	5,713	23

備考 △印は生産減を示す

昭和 9 年 9 月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品 名	生 産 額	9 月 中	前 月 中	前 年 同 月	1 月 以 降 累 計	
					昭和 9 年	昭和 8 年
金 (gr)		1,328,334	1,255,616	1,277,834	10,834,371	9,907,542
銀 (gr)		18,921,522	18,807,802	18,114,686	158,526,969	134,785,245
銅 (kg)		5,697,516	5,631,047	5,604,448	50,543,808	51,399,709
鉛 (kg)		579,302	572,378	551,363	5,082,026	5,024,931
錫 (kg)		2,332,306	2,557,080	2,202,606	21,879,465	21,254,953
鐵 (kg)		130,213	99,490	76,435	787,659	703,372
硫 黃 (t)		11,009	11,181	9,519	92,504	78,625
硫 鐵 (t)		84,868	84,416	69,810	782,885	663,306
硫 鐵 下 (t)		372,323	389,349	411,351	3,550,012	3,518,616
硫 安 (t)		73,071	64,418	63,543	581,758	537,630
石 炭 (t)		2,489,193	2,362,245	2,423,188	24,489,164	21,542,236
石 油 (原油) (100l)		201,100	217,911	178,150	1,691,305	1,641,319

昭和 9 年外國銑輸入高表 (單位噸) (銑鐵共同販賣會社)

月 次	輸 出 國 名					其 他	計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典		
1	10,736	102	—	—	—	—	10,838
2	13,563	274	—	—	32	—	13,869
3	11,304	71	—	—	—	306	11,681
4	8,399	31	—	414	16	—	8,860
5	15,806	152	152	—	—	—	16,110
6	12,826	—	—	—	203	—	13,029
7	11,124	81	—	255	—	7	11,467
8	15,988	—	—	—	—	—	25,988
9	19,721	407	—	—	—	—	20,128
10	24,070	101	—	104	—	—	24,275
計	153,537	1,219	152	773	251	313	156,245

内外最近刊誌參考記事目次

Zeitschrift für Metallkunde, Juni 1934.

Der Einfluss von dritten Metallen auf die Konstitution der Messinglegierungen. O. Bauer und H. Hansen. s. 121-128.

Untersuchungen über die Wärmetönung und die Aenderung einiger physikalischer Eigenschaften bei der Umwandlung des Messings. H. von Steinwehr und A. Schulze. s. 130-135.

Zur Bestimmung von Gas im Aluminium nach dem Heissextraktionsverfahren. K. Steinhäuser. s. 136-139.

Zeitschrift für Metallkunde, Juli 1934.

Ueber das System Aluminium-Zink. E. Schmid und G. Wassermann. s. 145-150.

Vergleich der Aushärtung einer gekneteten und einer gegossenen Legierung. P. Wiest und U. Dehlinger. s. 150-152.

Neue-Zustandschaubilder für die Systeme Pb-Tl und Pb-Tl-Cd. E. Jänecke. s. 153-155.

Wasserstoffdurchlässigkeit von Nickel, Kupfer und einigen Legierungen. W. Baukloh und H. Kayser. s. 156-158.

Beitrag zur Ausscheidungshärtung von Kupfer-Silber-Legierungen. R. Mitsche. s. 159-160.

Zeitschrift für Metallkunde, August 1934.

Versuche über die Festigkeitseigenschaften von Metallrohren bei der Beanspruchung durch Innendruck. E. Siebel und E. Kope. s. 169-172.

ZerreiBversuch bei ebener plastischer Verformung. G. Baranski. s. 173-180.

Volumenänderung durch Diffusion im Zusammenhang mit der umgekehrten Blockseigerung. C. Haase. s. 181-185.

Beitrag zur Frage der Bildung schützender Schichten auf Kupfer. L. W. Haase. s. 185-188.

Zeitschrift für Metallkunde, Sept. 1934.

Ueber die kohäsionsverhältnisse der gereckten und gedrückten Zugproben. N. N. Dawidenkow und E. M. Schwandin. s. 193-196.

Zusammenhänge zwischen kohäsion und Plastizität. W. Kuntze. s. 197-198.

Einfluss der Querschnittverminderung und der Düsenform auf die inneren Spannungen und die Festigkeitseigenschaften kaltgezogener Messingstangen. H. Bühler und E. H. Schulz. s. 199-203.

Die zerstörungsfreie Prüfung von Metallen durch Mesothor-Strahlung. M. Widemann. s. 204-206.

Vorgeschichtlich Bronzentechnik in Norddeutschland. J. Lechler. s. 206-207.

Zeitschrift für Metallkunde, Okt. 1934.

Zum Mechanismus der Elektrizitätsleitung. R. W. Pohl. s. 217-219.

Untersuchungen an Metallstoffen zur Metallmechanik. A. Smekal. s. 220-224.

Voraussetzungen für die Zusammenarbeit von Wissenschaft und Praxis im Betrieb. M. Rhaydt. s. 225-226.

Das Wesen der metallischen Mischkristalle und Verbindungen. U. Dehlinger. s. 227-230.

Kompressionen der Metalle bei der Bildung intermetallischer Verbindungen. W. Biltz. s. 230-232.

Versuche zur direkten Ermittlung der freien Weglänge der Elektronen in Metallen. A. Eucken und F. Förster. s. 232-235.

The Foundry, June, 1934.

Steel Castings for Boulder Dam. P. Dwyer. p. 14-17.

Exhibit stimulates early interest. p. 18.

Steel founders land NRA effects. p. 19.

Studies cast red brass. C. M. Saeger. p. 20-23.

Museum to have foundry exhibit. David Evans. p. 21.

Duplexing malleable cast iron. C. Morrison. p. 25-26.

The Foundry, July, 1934.

Building machine tool patterns. H. Ewig. p. 12-14.

Humidity affects core strength. F. G. Seifing and M. F. Suris. p. 14-15.

Report on Research Projects. p. 16-17.

Studies cast red brass. C. M. Saeger. p. 18-20.

Anneals malleable in small furnace. L. J. Wise. p. 21.

I. B. F. discusses brass castings. V. Delport. p. 22.

Properties extend gray iron uses. W. Worley Kerlin. p. 23.

Gives alternative molding methods. R. Lower. p. 24-25.

Prevent losses with proper gates and risers. P. Dwyer. p. 33-34.

Foundry, August 1934.

Controlles cupola melting operations. F. G. Steinebach. p. 12-14.

Ford runs foundry at the fair. p. 16.

Criticizes gray iron casts. R. Gray. p. 17.

Heat treatment of cast iron. J. W. Bolton. p. 18-20.

Removes dust at the shakeout. W. G. Gude. p. 21.

Sweep split molds off two centers. J. H. Eastham and J. Mcvey. p. 22-23.

Cast bronze chains in core molds. p. 24-25.

Prevent losses with proper gates and risers. P. Dwyer. p. 34-36.

French Foundrymen meet at Nancy. V. Delport. p. 40-42.

The Foundry, Sept., 1934.

Use plaster for foundry patterns. p. 12-13.

Heat treatment of cast iron. J. W. Bolton. p. 16-18.

Nonferrous foundry cast system. p. 19.

Melts bronze in a small cupola. J. Duffy. p. 20-22.

Casts steel with external chills. R. Burke. p. 23.

Pave roads with cast iron block. E. W. Davis. p. 24-25.

Reaction in cupola refractories. R. E. Aptekar. p. 26-28.

Make large generator casting. p. 29.

Prevent losses with proper gates and riser. P. Dwyer. p. 38-40-43.

The Foundry, Oct., 1934.

Convention draws world foundrymen. p. 22-23.

Exhibition to show future trends. p. 29-31.

Equipment furthers foundry progress. F. G. Steinebach. p. 32-37.

Tour leading foundry centers. p. 39-41.

Foundry melts 2,000 tons a day. P. Dwyer. p. 42-44.

Gray iron foundry cast system. p. 45.

Use plaster for foundry patterns. p. 46-48.

Short cycle anneal for malleable. G. Olison. p. 49-51.

Prevent losses with proper gates and risers. P. Dwyer. p. 61-64-67.

Nonferrous group discusses casts. p. 70 and 102.

The Metal Industry (London), June 1, 1934.

Metalwork in "The new architecture". p. 555-556.

The "single-Crystal state of metals". H. C. H. Carpenter. p. 557-560.

A historical sketch of copper smelting. H. R. Potts. p. 561-563.

Electrodeposition of aluminium from non-aqueous solutions. R. D. Blue, F. C. Mathers. p. 565-568.

The Metal Industry (London), June 8, 1934.

Copper wire drawing. A. G. Arend. p. 579-580.

Periodic structures in metals and alloys. L. Northcott. p. 581-583.

The "Single-Crystal" state of metals. p. 584-587.

The German non-ferrous metal market in may. p. 587-588.

British non-ferrous metals research association, 14th annual report. p. 589-600.

Institute of British foundrymen, annual conference. p. 591-592.

The Metal Industry (London), June 15, 1934.

Lead drosses and residues, practical blast furnace smelting. C. C. Downie. p. 603-604.

Studies on cast red brass. C. M. Saeger. p. 607-609.

Periodic structures in metals and alloys. L. Northcott. p. 611-612.

Quantitative throwing power. S. Field. p. 614-617.

The Metal Industry (London), June 22, 1934.

Difficulties of diecasting pure Aluminium. Castex. p. 627-630.

Studies on cast red brass. C. M. Saeger. p. 631-634.

The "Rotovac" oil burner. W. F. Wiltshire. p. 635-636.

The "Single Crystal" state of metals. H. C. H. Carpenter. p. 637-638.

The Metal Industry (London), June 29, 1934.

Chill-casting of non-ferrous metals. R. C. Stockton. p. 651-653.

Studies on cast red brass. C. M. Saeger. p. 654-656.

Periodic structures in metals and alloys. L. Northcott. p. 657-658.

The electrodeposition of copper, nickel and zinc alloys from cyanide solutions. Part I. C. L. Faust, G. H. Montillon. p. 661-665.

The Metal Industry (London), July 6, 1934.

Internal pressure stress in lead pipes. H. Bablik, J.

Krystof. p. 3-6.
 Melting and casting of special brass alloys. Leo. S. Ivanoff. p. 7-10.
 Rim-element electric furnaces for high temperatures. H. Masukowitz. p. 11-15.
The Metal Industry (London), July 13, 1934.
 Some statistical properties of an annealed alpha-grain aggregate. Part II. R. G. Johnston, and W. G. Askew. p. 27-30.
 Bronze welding with the oxy-acetylene flame. A. B. Kinzel, A. R. Lytle. p. 31-35.
 The German non-ferrous metal market in June. p. 37-38.
The Metal Industry (London), July 20, 1934.
 A modern copper mire mill in Italy. E. Kaestel. p. 51-53.
 The determination and recording of depreciation of profit-earning assets. S. Howard Withey. p. 55-56.
 Thermal expansion of bearing bronze. P. Hidenert. p. 57-60.
 Some further electrochemical principles applied in electrodeposition. S. Field. p. 61-63.
 The anodic oxidation of aluminium and its alloys. S. Wernick. p. 63-64.
The Metal Industry (London), July 27, 1934.
 The story of Shropshire's lead industry. E. C. Wadlow. p. 75-77.
 The French non-ferrous metal market. p. 77-78.
 The anodic oxidation of aluminium and its alloys. S. Wernick. p. 79-82.
 Temper-hardening copper alloys. M. Cook. p. 83-87.
Metal Industry (London), August 3, 1934.
 Ductility testing. p. 99-100.
 Temper-hardening copper alloys. M. Cook. p. 101-106.
 Recent developments in the electrodeposition of nickel. A. W. Hothersall. p. 109-112.
Metal Industry (London), August 10, 1934.
 Blast furnace smelting of tin residues. C. C. Downie. p. 123-124.
 Aluminium for transmission lines. p. 125-128.
 Factors influencing the density and soundness of castings. E. Longden. p. 129-130.
 The anodic oxidation of aluminium and its alloys. S. Wernick. p. 131-133.
 Temper-hardening copper alloys. M. Cook. p. 134-136.
The Metal Industry (London), August 17, 1934.
 Progressive features in the manufacture of non-ferrous seamless tubes. p. 147-149.
 The anodic oxidation of aluminium and its alloys. S. Wernick. p. 151-152.
 Tin research and development first general report, 1934. p. 153-155.
 Recent developments in the electrodeposition of nickel. A. W. Hothersall. p. 157-159.
Metal Industry (London), August 24, 1934.
 Metal fittings for outdoor lighting. p. 171-172.
 Properties of retorts for metallurgical processes. p. 173-176.
 Arc welding equipment. p. 177-178.
 French non-ferrous industries in August. p. 183.
Metal Industry (London), August 31, 1934.
 Present day blast smelting of nickel. C. C. Downie. p. 195-197.
 Foundry cast and administration. W. E. J. Beeching. p. 199-200.
 Some further electrochemical principles applied in electrodeposition. S. Field. p. 205-206.
 How to estimate plating cast. H. Karet. p. 207-208.
 Nickel plating Zinc. A. Hirsch. p. 208.
Metal Industry (London), Sept. 7, 1934.
 Some statistical properties of an annealed alpha-grain aggregate: Part III. R. G. Johnston, W. G. Askew. p. 219-222.
 Institute of metals. p. 223-224.
 The work of Walter Rosenhain. J. L. Haughton. p. 225-228.
 Visits to works. p. 229-231.
Metal Industry (London), Sept. 14, 1934.
 Making brass chains. A. G. Arend. p. 243-244.
 Institute of metals meeting further visits to works. p. 245-247.
 Abstracts of some the principal papers. H. Quinney. p. 248-250.

British association meeting abstracts of some of the papers. p. 251-252.
 Science at the Universities. H. T. Tizard. p. 253-255.
Metal Industry (London), Sept. 21, 1934.
 Working new metals and alloys. p. 267-268.
 The improvement of white bearing metals for severe service. D. J. Macnaughtan. p. 269-272.
 Behaviour of white bearing metals under deformation test. p. 273-274.
 The german non-ferrous metal market in August. p. 275-276.
 Practical plating, the deposition of copper. E. A. Olland. p. 277-279.
 Electrodepositor's technical meeting. p. 279-280.
Metal Industry (London), Sept. 28, 1934.
 Grinding wheel accidents. R. J. Waldo. p. 291-292.
 The improvement of white metal bearing metals for severe service. D. J. Macnaughtan. p. 293-297.
 A reflectivity method for measuring the tarnishing of highly-polished metals. L. Kenworthy, J. M. Waldram. p. 299-301.
The Metal Industry (London), Oct. 5, 1934.
 Some notes on phosphor-bronze. R. C. Stodston. p. 315-317.
 Metalwork at the building exhibition. p. 319-320.
 Birmingham metallurgical society industrial technique. p. 321-324.
 Some further principles of electrochemistry applied in electrodeposition. S. Field. p. 325-326.
 Bus-bars for electrochemical plant. L. C. Pan. p. 327-329.
Metal Industry (London), Oct. 12, 1934.
 Further improvements in seamless tube manufacture. G. Evans. p. 339-341.
 Testing the film strength of lubricants. p. 341-342.
 The effect of some mill variables on the gauge of sheet brass. C. K. Skinner. p. 343-344.
 Institute of metals discussion on white bearing metals. p. 345-349.
 The German non-ferrous metal market in September. p. 350-351.

(中野)

燃料協會誌 第13年 第11號
 スラッグタップファーンネスに就て 福井 正治(1365)
 粗悪炭の燃焼に就て 田中 健次(1375)
日本鑛業會誌 第50卷 第595號
 馬來半島龍運鐵山に就て 藤村 幸一(909)
 金粒の浮游度及び硫化鐵物の其れに及ぼす影響に就て 石川 留吉(922)
海外經濟事情 昭和9年 12月 13日 第51號
 伊國アルミニウム類輸入禁止(昭和9年 11月 27日著在 伊、杉村特命全權大使電報) (7)
 廣東對本邦貿易狀況(8月)(昭和9年 10月 25日附在 廣東、服部總領事代理報告) (3)
 廣東貿易狀況(8月)(昭和9年 10月 31日附在廣東、服部總領事代理報告) (4)
 印度聯州經濟會議と同會議の決定施設(昭和9年 9月 24日附在カルカッタ三宅總領事報告) (17)
 佛國鐵鋁製造工業狀況(昭和9年 9月 3日附在佛三谷臨時代理大使報告) (49)
 西班牙國造船業概況(昭和9年 7月 25日附在西、青木特命全權公使報告) (61)
東北帝大研究報告 第9輯 昭和9年 11月
 鐵-室素系合金の狀態圖に就て 錦織 清治()
 亞鉛電解に關する研究 第1報 電流能率に及ぼす諸條件の影響 小川 芳樹()
 高滿庵大洲田鋼の加熱變化に及ぼす炭素の影響 村上武次郎 矢島 忠和()
 四元系平衡狀態圖に就て 第1報 第2報 武田 修三()
 青銅狀態圖の研究 濱住松二郎()
 亞鉛電解に關する研究 第2報 電流能率の連續的測定及び不純物の影響 小川 芳樹()
 鹽基性平爐鋼滓の研究(豫報) 鈴木廉三九()

鹽浴用鹽類の平衡状態圖の研究 第1報 硼砂-鹽化ナトリウム-鹽化カリウム系平衡状態圖 佐藤知雄、砂見淳一 ()

東北帝大研究報告 第10輯 昭和9年11月
 膠質劑を添加したる硫酸亞鉛液より亞鉛を電着せしむる場合の分極電位差に就て(其の1) 石原富松外2名 ()
 鹽浴用鹽類の平衡状態圖の研究 第2報 炭酸ナトリウム鹽化バリウム-鹽化カリウム系平衡状態圖 佐藤 知雄 ()
 鹽浴用鹽類の平衡状態圖の研究 第3報 炭酸ナトリウム鹽化バリウム鹽化カリウム系平衡状態圖 佐藤 知雄 ()
 アルミナ製熔融管の多孔性を減ずる一方法 佐藤 知雄 ()
 滿庵の添加による鐵-セメントイト-硫化鐵合金の平衡状態圖の變化 佐藤 知雄 ()
 鹽浴用鹽類の平衡状態圖の研究 第4報 鹽化バリウム-鹽化カルシウム-鹽化ナトリウム系 佐藤知雄、天野貞一郎 ()
 鐵鋼の高温硬度に就て 濱住松二郎 ()
 鋼の窒化に關する基礎的研究 錦織 清治 ()

北海道石炭鑛業會々報 第243號
 夕張天龍坑採炭に就て 森下 星 (1)
 最新炭坑機械學 日野 神兒 (16)

石炭時報 第9卷 第12號
 山東炭の共同販賣計畫に就て 市吉 徹夫 (2)
 截炭機に就いて 高橋 錦一 (24)
 新しい無粘結劑煉炭製造機及び原料炭加熱裝置 森政 保 (29)
 山東省の石炭經濟事情 外務省通商局 (33)

海外經濟事情 昭和9年12月3日 第51號
 伊國アルミニウム類輸入禁止(昭和9年11月27日著在伊、杉村特命全權大使電報) (7)
 廣東對本邦貿易狀況(昭和9年10月25日附在廣東、服部總領事代理報告) (8)

廣東貿易狀況(昭和9年10月31日附在廣東、服部總領事代理報告) (4)
 印度聯邦經濟會議と同會議の決定施設(昭和9年9月24日附在カルカッタ、三宅總領事報告) (17)
 西班牙國造船業概況(昭和9年7月25日附在西、青木特命全權公使報告) (61)

日本化學會誌 第55帙 第11號
 アルミニウムに對する珪素の固態溶解能に關する研究 岸野 佐吉(1134)
 分析に於ける誘導沈澱現象研究(其の一) 加藤 久次(1148)
 硫化水素による金屬の定量的分離に關する研究(第7報) 硫化水素による Zn, Cr. の定量的分離及び Ni, Co, Fe と Cr との新定量的分離法に就て 加藤 久次(1152)
 アントラニル酸に依る Zn, Cd, Ni, Co, Cu 及 Mn の定量及び分離と水素イオン濃度との關係に就て 後藤秀弘(1156)

機械と金屬 第1卷 第3號
 汽罐復水管の異常腐蝕現象と其防止法 深川 庫造 (1)
 被覆電氣銲接棒の新傾向 佐々木新太郎 (7)

機械と金屬 第1卷 第2號
 金屬セメンテーション概説 加瀬 勉 (1)
 鋼の表面硬化劑としての石灰窒素の應用 山田良之助 (6)
 アルミニウムの常溫加工と燒鈍 堀口 貞雄 (9)

エンヂニヤリング Vol. 122. No. 12
 金屬電弧銲接設計法 三好 巽 (476)

應用物理 第3卷 第12號
 砥石から出る鐵の火花の物理的性質 中谷宇吉郎 (2)

金屬 第4卷 第12號 昭和9年12月1日
 高錫青銅 戸波 親平 (401)
 高温に加熱する事に依る鑄鐵の生長に就て 菊田多利男 (403)
 硬度測定法の比較 石澤 命知 (409)
 金属材料製作家と使用者との座談會 (413)

主要製鐵所に於ける10月分鐵鋼材生産高調(商工省鑛山局)(單位噸)

種 別	10 月 分			累 計			
	昭和9年	昭和8年	増 減	昭和9年	昭和8年	比 率 増 減	%
銑 鐵 (内、鮮)	174,234	149,283	24,951	1,590,289	1,284,800	305,489	23
普 通 滿 洲 鋼 板	42,284	33,731	8,553	381,170	357,201	23,969	6
販 賣 向 鋼 片	530,306	277,555	52,751	3,034,699	2,506,211	528,488	21
販 賣 向 シ ー ト	8,289	6,822	1,467	71,353	78,783	△ 7,430	9
普 通 鋼 壓 延 鋼 材	10,938	8,470	2,468	117,523	94,187	23,336	24
	5,152	5,879	△ 727	51,855	46,786	5,069	10
	266,043	231,890	34,153	2,510,921	2,011,342	499,579	24
壓 延 鋼 材 内 譯							
0.7 mm 以下 鋼 板	32,946	27,740	△ 4,794	241,424	253,612	△ 12,188	4
其 他 の 鋼 板	53,686	50,679	3,007	516,317	391,337	124,950	31
力 鋼 板	6,646			48,832			
錳 棒	66,492	58,417	8,075	607,830	523,364	84,466	16
形 軌 鋼 條	41,343	28,616	12,727	359,921	231,139	78,782	28
線 鋼 材	31,424	28,331	3,043	303,173	213,817	89,356	41
鋼 管 他	27,711	26,974	737	290,456	224,495	65,961	29
其 の 他	13,282	8,477	4,805	109,993	96,193	13,800	14
	2,513	2,606	△ 93	32,975	27,355	5,620	20

備考 △印は生産減を示す